

# エグゼクティブ サマリー

## バリュー チェーン最適化に向けた人工知能とブロックチェーンの融合 (1000 を超える AI アルゴリズムを仮想通貨コミュニティに公開する)

ビジネス バリュー チェーンは、完全デジタル取引という避けては通れない変化に直面しています。リアルタイムで使用できる膨大な量のデータ（ビッグ データ）は、人工知能とロボットを活用しつつ、これらのバリュー チェーンの最適化にますます利用されるようになるでしょう。

いかなるバリュー チェーン（B2B、B2C など）も、基本的に 3 つの主要な「流れ」から成り立ちます。これらの流れとは: (i) 商品とサービスの流れ; (ii) 情報の流れ; (iii) 支払いの流れの 3 つです。最も重要な点は効率性です。言い換えれば、3 つの流れすべてを最適化することは、バリュー チェーン内で、供給者から顧客に至るまでの商品/サービスの最適な（より速く、より安価で、より良い）流通という点において、最大効率（以下、「効率性シンギュラリティ」といいます）を実現するということを意味します。また同様に、最適化を行うことは、そのバリュー チェーンの参加者間での情報と支払いにおける効率的な共有および移動が必要になるということです。

中央集権型組織を持つバリュー チェーンは、理論的にこの効率性シンギュラリティを実現できるものの、（部分的）自律した非中央集権組織のバリュー チェーンは、主に信用の欠落が原因で、ほとんどの場合（商品/サービス、情報と支払いの共有において）適切に機能しません。結果として、毎年何兆ドルもの価値が、前述の流れの中で失われています。

AI のアルゴリズムは既に、非中央集権型組織（以下「混合バリュー チェーン」といいます）を含むバリュー チェーン内での商品とサービスの流れを最適化することが可能ですが、今までは情報と支払いの効率的な共有方法がなく、参加者同士お互いに対する信用がないという問題を解決する、画期的なテクノロジーがありませんでした。ブロックチェーンはまさにその問題を解決するテクノロジーであり、人工知能と組み合わせることは、このような混合バリュー チェーンでの（準）最大効率達成における鍵を握ります。

そこで ORS グループは、ハイパースマート コントラクトの概念を創案しました。ハイパースマート コントラクトとは、すなわちインテリジェントな接続体（イーサリアム アカウントと紐づいたスマート デモン）であり、次の 2 つの特長を持ちます: (i) 自律した非中央集権型組織によってオンチェーンに保管されたデータを使用し、効率化/最適化における複雑な問題を解決する AI アルゴリズムを起動する; (ii) 仮想通貨による即時決済が可能。ハイパースマート コントラクト（以下「HSC」といいます）により、いかなるバリュー チェーンでも、商品/サービスおよび情報と支払いの流れにおいて、最高レベルの効率性（したがって収益性）を実現するために AI の能力を適用することができます。

ORS グループはこの分野のパイオニアです。AI を基盤とするソフトウェア ソリューションにおいて 20 年以上の歴史を持ち、Fortune 2000 に名を連ねる様々な業界のお客様の、毎日発生する何兆ものデジタル取引を自動で最適化するお手伝いをしています。このような業績を可能にするのは、ハイパースマート アルゴリズムと呼ばれる、洗練されたアルゴリズムの結合可能なモジュールです。同アルゴリズムは、世界中の企業に販売される、100 以上のプロプライエタリ ソフトウェア ソリューション（以下「ORS ハイパースマート ソリューション」といいます）に対してブロックを生成しています（[www.ORS.ai](http://www.ORS.ai) 参照）。

ビジネスとテクノロジーにおける前述の軌道に従いつつ、革新的なソフトウェア ソリューションの提供を通して培った長年の経験を活かし、100 名を超える ORS のアルゴリズム研究者と開発者は現在、ハイパースマート コントラストを、分散型台帳（別名ブロックチェーン）の分散型情報ロジックと仮想通貨の即時決済に統合するべく取り組んでいます。

アルゴリズムとハイパースマート コントラクトの売買が行える（サードパーティにもオープンな）ORS プラットフォームとマーケットプレイスの開発は、既存のビジネスと仮想通貨コミュニティによる新しいブロックチェーン プロジェクトの両方に、ビジネス モデルの飛躍的な進化、より高い収益性、そして競争優位性をもたらすことができます。

ハイパースマート コントラクト、アルゴリズム、また ORS SA もしくはサードパーティによって開発されたその他のデジタル資産は、ORS のユーティリティ トークン「ORST」を介して、同社プラットフォームとマーケットプレイスで自由に取引が可能です。